

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

ケイティ

配給／東宝東和

2003（平成15）年11月13日鑑賞

＜東宝東和試写室＞

Data

監督・脚本：スティーブン・ギャガン

出演：ケイティ・ホルムズ／ベンジ
ヤミン・ブラット／チャーリー・ハナム／ズイー・デシヤネル／メラニー・リンスキ

👁️👁️ みどころ

「シューカツ（就活）」と「卒論」に追われる美人女子学生を主人公とし、有名大学の構内を舞台とした異色サスペンス。『トラフィック』（00年）と同様に難しいドラマだが、アッと驚くドンデン返しの冴えはお見事。それにしても美男、美女をそろえたものだ・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

＜主人公は美人女子学生＞

この映画のタイトル『ケイティ』とは、主人公のケイティ・パークの名前。そしてこの主人公ケイティ・パークを演ずる若手美人女優の名も「ケイティ」・ホルムズ。

このことから分かるように、この映画は、ケイティ・ホルムズ以外には、『ケイティ』の主人公を演じられないという思いでつくられたものだ。

＜監督と脚本はスティーブン・ギャガン＞

スティーブン・ギャガンは、アメリカの麻薬問題に深く切り込んだ社会派ドラマである『トラフィック』（00年）でスリリングな脚本を書き、アカデミー脚色賞とゴールデングローブ脚本賞を獲得した人物。

そのスティーブン・ギャガンが自ら脚本を書き、監督としてデビューしたのが、この『ケイティ』。『トラフィック』も複雑なストーリーが絡み合っ、て、すごく分かりにくい映画だったが、この『ケイティ』も、はっきり言ってすごく難しい映画。終盤で見せる「アッと驚くドンデン返し」は、到底予想できないだろう。

もっとも、『トラフィック』では主役が男性刑事だったから色気はなかったが、この『ケ

イティ』の主人公は美人学生だから、ついついその魅力を追っかけてしまい、スリルとサスペンスがあと回しになりそうだが・・・。

そんな中、アッと驚く展開が・・・。

<君は「シューカツ」という言葉を知っているか？>

「シューカツ」という今の言葉が分からないようでは、あなたは、もうオジさん、オバさん。「シューカツ」とは、「就職活動」のこと。こんな言葉がはやるのは、今日本での就職活動がいかに大変かを物語っている。そして、その事情はアメリカでも同じ・・・。有名大学に通い、成績抜群で容姿端麗のケイティでも、大学4年生ともなると一流企業を狙って「シューカツ」に忙しい毎日だ。さらに卒論も仕上げなければならない事情は、アメリカの大学は日本より相当厳しいはずだ。

<ケイティの恋人エンブリー>

ケイティには、かつて「特別の仲」の友人、つまり「恋人」のエンブリー・ラーキン（チャーリー・ハナム）がいた。エンブリーはハンサムで才能豊か、そして自由奔放な男性。

そのハンサムな容姿と才能、そして強引なアタックに美人学生のケイティはコロリとまいてしまい、以来、特別な関係が続いていた。そのエンブリーは幼い頃両親を亡くし、莫大な遺産を受け継いでいた。

ところが2年前、そのエンブリーは突然行方不明に・・・。ところが行方不明となった後、彼の預金口座には何ら手がつけられていなかった。果たしてエンブリーは失踪したのか？死亡したのか？それとも気ままな旅行を楽しんでいるのか・・・？謎は深まったが、捜査は何の進展もなかった。

<ちょっと変わったハンドラー刑事>

新たに、この事件の捜査を担当することになったのは、アルコール依存症からやっと抜け出すことができたウェイド・ハンドラー刑事（ベンジャミン・ブラット）。彼はエリートではないが、刑事としては優秀らしい。ケイティへの聞き取りからスタートし、地道な捜査を続けていた。

美人のケイティは当然男子学生の憧れの的。ケイティを想う男子学生にハリソン（ガブリエル・マン）がいた。他方、男にモテモテのケイティを見る同性の目は厳しく、冷やかなものもあった。ハンドラー刑事が捜査の仕事とは別に、ケイティに対して好意を持っていることは、友人の女子学生にたちまち見抜かれた。もっとも、ケイティがハンドラー刑事と付き合う素振りを見せると、その友人たちは当然猛反対。さらに、ケイティに好意を寄せているハリソンをケイティが振ってしまったことには、非難ごうごうだ。

でもケイティがモテるのは仕方がない・・・。

＜ケイティを襲う混乱＞

卒論と「シューカツ」に集中しようとするケイティに対するハンドラー刑事の質問は、執拗なものだった。そんな時、不意にケイティは何者かの気配を・・・。

エンブリーが戻り、自分を監視している・・・。そう感じたケイティの不安と混乱は次第に大きくなっていった。そしてそんな中、遂にケイティとハンドラー刑事との仲は一線を越えてしまった。

そして、ケイティにはっきりと振られたハリソンの失踪とエンブリーの登場。狙っていた一流企業からせつかく合格の通知とニューヨーク行きの航空券を受け取りながらも、ケイティの気持ちは容易に整理はつかなかった。

＜怯えるケイティ＞

そんなある日、ケイティの部屋に一枚の手紙が投げ込まれた。エンブリーからのもので、「例のところ」で待っているというもの。2人だけに分かる「例のところ」へ出かけていったケイティは、そこでエンブリーの姿を・・・。

エンブリーは、2年間世界を旅行してきた結果、この国やケイティの価値を再発見したと告白して、ケイティに対してセックスを求めてきた。これを拒否するケイティ。2人の間には今や完全に心の溝ができていたのだった。

＜ケイティの再出発は・・・？＞

そして、今日ケイティは、刑事を辞職する決心を固めたハンドラー刑事と共に、ハンドラー刑事の田舎で暮そうと決心し、ハンドラー刑事を待っていた。

そこに再び現れたのがエンブリー。

ハンドラー刑事は、エンブリーを追って、エンブリーとケイティが昔愛し合っていた「例のところ」へ。そして、そこで明らかとなる驚愕の事実とは・・・？

＜ケイティのキャリアウーマンの途は・・・？＞

無事に大学を卒業したケイティは、今日は赤いスーツに身を包み、役員室へ。部屋の中では重役会議の真っ最中だ。そしてある幹部からは、ケイティに「君も中に入って聞いておきなさい。勉強になるから・・・」と。まさに前途洋々のケイティだ。

しかし、そんなケイティの胸の中にはずっと昔からの不安が・・・。果たしてその不安とは・・・？

そして、いよいよラストの場面。そのラストの場面で、ケイティはその幹部から、「社内恋愛のルールは知っているね、だからもう会わないでおこう・・・」と告げられた。ケイティは・・・、ここでもまた振られてしまったのだった・・・。果たして魅力いっぱいのもてもてのケイティは本当の姿だったのだろうか・・・？

2003（平成15）年11月14日記